

時間外業務を削減し看護業務の充実を図る — 問診表導入を試みて —

佐藤美智代 藤原 浩美 益塚 典子 山本こずえ 佐久間美奈

はじめに

平成11年4月から病棟として機能したばかりの当病棟は病棟内のルールが統一されていない、何もかもが手探りの状態で業務がこなされていた。そんな中、業務の統一化を図るべく、実践または修正している段階である。

当病棟は泌尿器科、胸部心臓血管外科の混合病棟であることから、看護業務量が多いという現状がある。業務を検討するための、スタッフのアンケート結果から、業務改善を目的として、問診表導入をすることとした。

今回、この問診表により、実際に業務の改善ができたかどうか検討したので、その結果を報告する。

研究方法

1. 期間 2000年4月5日～11月10日
2. 方法 ①必要な患者情報を得るための初診問診表（外来受診時）および入院問診表（入院時）を作成し、患者または家族にみずから記入して頂いた。
- ②入院後に担当看護婦が情報収集に要した時間および入院記録に要した時間を、問診表導入前後で比較検討。
- ③スタッフの時間外勤務実績を問診表の導入前後で比較検討。

結 果

図1は入院時の情報収集に要した時間を示している、問診表導入前は、30分以上が59%を占め

ていたのに比べ、問診表導入後は、10分～20分が76%を占めており、平均で約15分間短縮されていることがわかる。

図2は看護計画、看護処置表などの入院記録をまとめるのに要した時間を示しているが、問診表導入前は60分が55%を占めているが、問診表導入後は大幅に短縮されている。

表1は時間外勤務実績を示しているが、時間外勤務総時間数と看護婦一人当たりの時間外実績総時間数は減少し、業務の改善が図られている。

考 察

これまでは、入院時に担当看護婦が患者に直接問診し、情報を書き込む方法をとっていたが、必要な情報が得られていないことがある。長い時間を要する、問診後に内容を転記するなどの問題点があった。

今回、問診表を導入することにより、業務改善された結果が得られた。これは、問診表を導入したことにより、問診に要する時間が短縮されたこと、収集する情報が標準化されたこと、問診表と入院初期看護記録の転記という作業がなくなったことが、大きな要因と考えられた。また、初診問診表と入院問診表を同時に使用することにより、外来と病棟で一貫した看護を継続する一助となった。情報収集は外来受診時から必要であると考えられ、外来と病棟の連携が示唆された。

今後は、今回、作成した問診表に対する患者からの評価も必要であり、よりよい方法を検討して行くことが重要と考える。また、記録改善のみならず、他の業務に関しても同様に改善できる可能性があり、業務の見直しと検討が必要である。

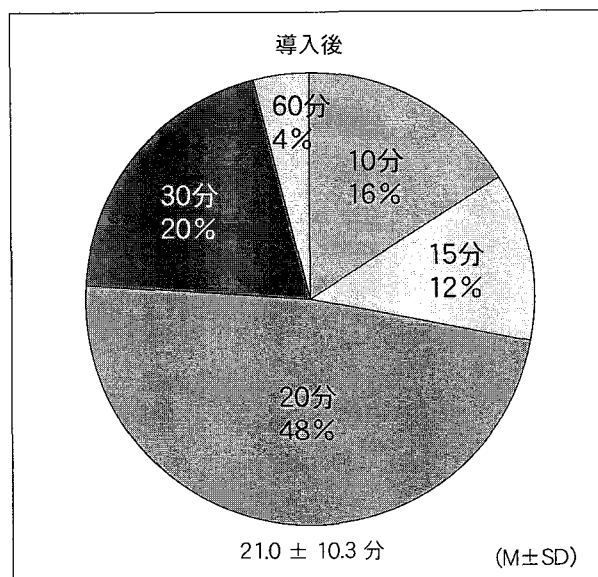
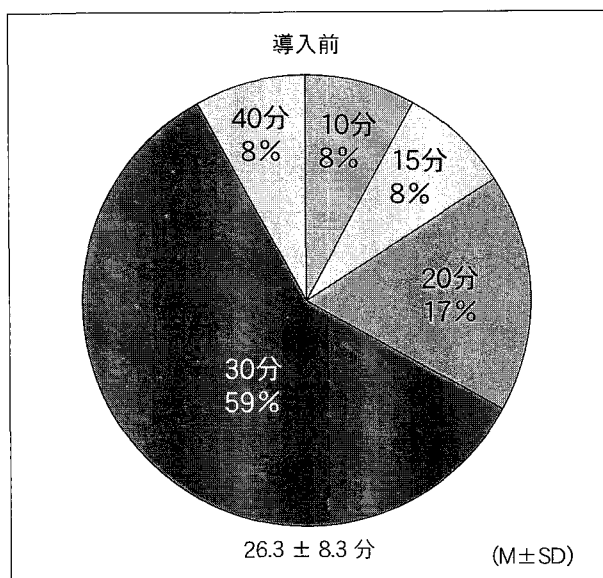


図1 入院時情報収集に要した時間（1患者あたり）

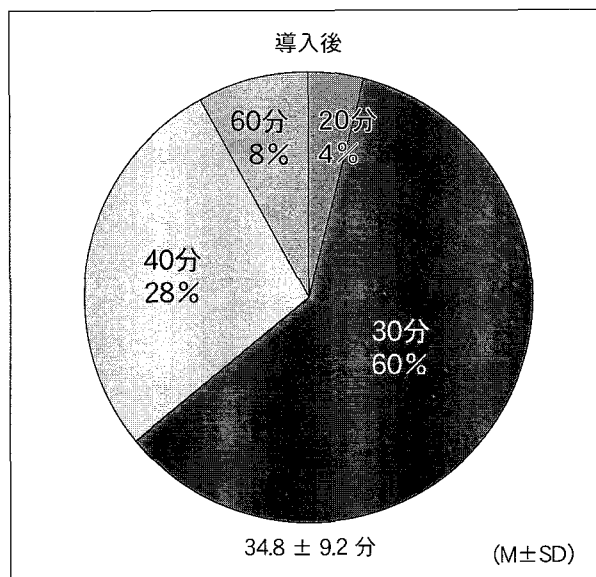
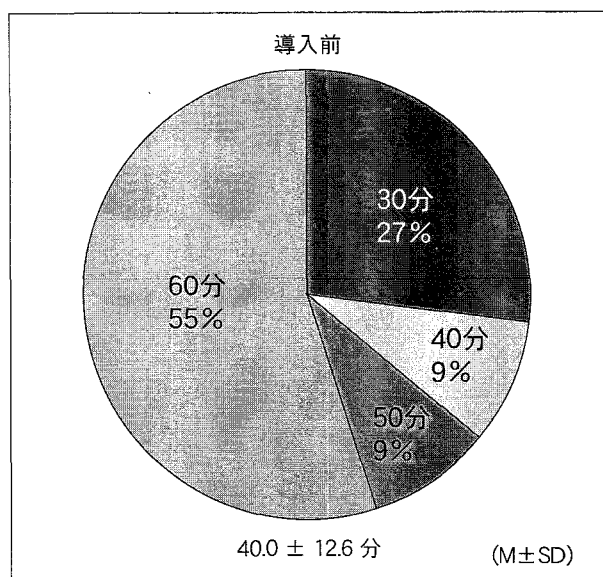


図2 入院記録をまとめるのに要した時間（1患者あたり）

表1 時間外勤務実績 (M±SD)

項 目	導入前	導入後
新規入院患者数（人／月）	58.0 ± 7.9	58.7 ± 3.1
時間外勤務総時間数（時間／月）	717 ± 92	510 ± 45
1人当たり時間外実績総時間数（時間／月）	30.0 ± 5.1	22.2 ± 2.0

結 論

1. 問診表の導入により、入院時における書類作成の時間が短縮され、内容は標準化された。
2. 問診表の導入により時間外業務量が削減され、看護業務の改善につながった。

お わ り に

今回、この研修を通して時間外の多いことを数字としてとらえることができました。今後も、時間外の現状を把握し、業務のシステムを見直し無駄を省き、質の向上を図るために業務改善をすすめていきたいと考える。

文 献

- 1) 藤村龍子 患者アセスメントマニュアル
- 2) 社会保険船橋中央病院看護記録委員会 看護実践に活かすアナムネーゼ；情報収集紙の活用 「看護実践の科学」 22 (13) :30-34, 1997
- 3) 水早苗 他 アナムネーゼ用紙の検討から看護診断へ 「看護実践の科学」 22 (13) : 35-40, 1997
- 4) 花岡真佐江 アナムネーゼ聴取の基本的な技術「看護実践の科学」 22 (13) :41-44, 1997
- 5) 村上美好・土橋美智子 看護記録を見直す看護の質を高め記録時間短縮を目指して「婦長主任事情」 2 (21) : 23-27, 1997
- 6) 大浦成子 看護記録の変化でわかる“今求められる看護”「婦長主任事情」 (35) :5-11, 1997
- 7) 村上美好・大内睦子 透析室の業務見直し；超過勤務時間の短縮を目指して「婦長主任事情」 2 (35) : 83-89, 1997
- 8) 村上美好・湊谷あい子 超過勤務時間の短縮化を図るための取り組み「婦長主任事情」 2 (37) : 66-70, 1997



看護の日 2001. 5. 12